

■ **ブラックアウト、福島原発事故、土砂災害・・・災害大国で生きる術を学ぶ** ■

特別講演「**北海道の災害を考える**」を開催

～ 社会安全学部が誇る防災・減災のスペシャリストが登壇 ～

【日 時】7月7日(日) 15:00 ～ 17:00 【場 所】ホテル札幌ガーデンパレス

関西大学ではこのたび、「防災・減災」のスペシャリストたちによる特別講演「北海道の災害を考える」を7月7日(日)15:00からホテル札幌ガーデンパレスにて開催します。

**本件の
ポイント**

- ・胆振東部地震で発生した土砂災害や液状化被害等へのリスクと向き合い、その対策を考える
- ・ブラックアウト(全停電)の事例から、電力供給システムの問題点を考える
- ・福島原発事故を事例に、非常事態における住民とのコミュニケーションを考える

本講演会は、北海道エリアで開催する教育懇談会にあわせて、特別行事として実施するものです。登壇者は防災・減災を専門とする社会安全学部の教授陣。まず地盤・岩盤工学を専門とする小山倫史准教授は、多数の土砂災害を発生させた北海道胆振東部地震を踏まえて、地盤災害リスクとの向き合い方および被害を受けないためのハード・ソフト対策を論じます。

次いで熱工学を専門とする小澤守教授は、同地震による電力供給システムの破綻が引き起こしたブラックアウト(全停電)を事例に、北海道電力の成り立ちから説き起こし、現状の電力供給システムの問題点などを示します。

そして最後に、安全社会心理学を専門とする土田昭司教授が、東京電力福島第一原発事故を事例に、有用な情報伝達の方法ならびに原子力防災としてのコミュニケーションについて解説します。

いつどこで起きるかわからない自然災害。北海道の災害を軸に改めて防災・減災と真剣に向き合い、参加者とともに災害大国・日本で生きる術を考えます。

■ 地方教育懇談会とは？

本学では、毎年5月に全国最大規模の“父母・保護者が集まる会”として、教育後援会総会を千里山キャンパスで開催(参加者約6,000名)していますが、総会に出席できない近畿圏以外に在住の父母・保護者の方も多くおられます。そこで本学教職員が全国32都市に出向し、教育方針や学業、学生生活、就職状況などの説明をはじめ、個別相談を通じて懇談を行っています。例年、全会場で延べ約800名が参加しています。

つきましては、取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

< 特別講演「北海道の災害を考える」の概要 >

【日 時】7月7日(日) 15:00 ～ 17:00 (教育懇談会は10:00 ～ 15:00)

【場 所】ホテル札幌ガーデンパレス(札幌市中央区北1条西6丁目)

【プログラム】<司会・進行> 高橋 智幸(関西大学社会安全学部長)

<挨拶> 芝井 敬司(関西大学学長)

<特別講演> ①「地盤災害リスクにどのように向きあうか」: 小山 倫史(同学部准教授)

②「大規模停電と電力供給システムの課題」: 小澤 守(同学部教授)

③「非常事態における住民とのコミュニケーション」: 土田 昭司(同学部教授)

【後 援】北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、NHK札幌放送局、HBC北海道放送、STV札幌テレビ放送、HTB北海道テレビ、テレビ北海道、北海道文化放送、AIR-G'エフエム北海道、FMノースウェーブ、北海道新聞社(順不同)

以 上

※取材をご希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当: 寺崎、浦田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■ 講演概要・登壇者プロフィール

○ 小山 倫史 (社会安全学部准教授) <専門分野：地盤・岩盤工学>

京都大学大学院助教を経て、2014年に本学に着任。研究領域は土木工学の地盤・岩盤工学であり、特に岩盤内の地下水および熱-応力-浸透-化学反応連成挙動の数値シミュレーションが専門。研究のアプローチは数値シミュレーションから室内実験、現場計測・モニタリングまで幅広い。



講演概要 胆振東部地震では、厚真町を中心に火山灰土が堆積する軟弱な地盤において多数の土砂災害が発生した。また、震源から離れた札幌市清田区では、谷埋め盛土で大規模な液状化が生じ深刻な被害が発生した。本講演では今回の地震を踏まえて、これから地盤災害リスクとどのように向き合うのかについて、被害を受けないためのハード、ソフト対策と合わせて考える。

○ 小澤 守 (社会安全学部教授) <専門分野：熱工学>

大阪大学助手、神戸大学助手、神戸大学助教授を経て、1991年に本学に着任。2010年に社会安全学部に移籍(2012～2016年社会安全学部長)。最近では沸騰二相流の動的挙動、自然対流、新燃料、小型燃焼器・ボイラの開発、原子力安全問題等について活発な研究活動を展開している。



講演概要 2018年9月6日の胆振東部地震によって電力供給システムが破綻して全道でブラックアウトが発生し、一極集中の弊害や、再生可能エネルギーの利用システムが不十分といった批判記事がマスコミ各社に報じられた。この講演では北海道電力の成り立ちから説き起こして、今回のブラックアウトや現状の電力供給システムの問題点などを聴講者とともに考える。

○ 土田 昭司 (社会安全学部教授) <専門分野：安全社会心理学>

大阪大学助手、明治大学助教授を経て、1997年に本学社会学部に着任。2010年より社会安全学部に移籍。安全や危険の判断、意思決定のメカニズムを態度構造理論や感情理論として研究している。



講演概要 東日本大震災の津波が引き金となった東京電力福島第一原発事故は、多くの人々にとって発生するはずがないと信じていた放射性物質を大気放出する事故であった。一般住民はもちろんのこと、消防、警察を含む自治体職員、東京電力の社員のほとんど誰も、有効な対処法をよく知らなかった。有用な情報の伝達が必要であった。本講演では、原子力防災としてのコミュニケーションについて考える。

〔挨拶〕 芝井 敬司 (関西大学学長)

1978年京都大学文学部史学科(西洋史)卒業。京都大学助手を経て1984年本学に着任し、2016年10月からは第42代学長を務める。数量歴史学の歴史研究方法に関心を寄せ、いち早くその動向をわが国に紹介して注目された。また、モンテスキューやエドワード・ギボンに関する研究業績も多数。



〔司会〕 高橋 智幸 (社会安全学部長)

東北大学助手、京都大学助手、秋田大学准教授を経て2010年に本学に着任。専門は水災害。文部科学省や国土交通省、内閣府、経済産業省などの省庁および大阪府や兵庫県などの自治体の防災および環境に関する委員を多数歴任。2018年より社会安全学部長。



■ 特別講演の参加申込方法

特別講演については、一般の方も参加可能です。※先着順
電子メールにて、件名に「特別講演」、本文に申込者氏名および電話番号を記入の上、関西大学教育後援会<koenkai@ml.kandai.jp>宛に送信してください。

〔一般の問い合わせ先〕 関西大学教育後援会事務局 Tel.06-6368-0056